

【特色ある教育活動】

大泉桜学園では、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指し、教育目標を「桜学精神」と定め、9年間を見通した教育活動の充実を図っています。

特に、体験活動や異年齢集団による活動を重視しています。入学式、卒業式、運動会、桜祭（音楽会）、校外学習など、多くの教育活動において異なる学年の児童生徒が共に活動する機会を設け、主体的に取り組むことによって、児童生徒のキャリア発達を促しています。

こうした環境は和やかな校風を生み、児童生徒の人間関係が豊かになり、自他を大切にする豊かな心の育成につながっています。



【令和5年度の研究】小中一貫教育校の特色を生かして、自律的、協働的な学びを育む授業の創造～発達段階、教科の特性を踏まえたエデュスクラムの活用を通して～

本学園では、毎年小学部と中学部の教員が協働して授業改善に向けて研究を推進しています。今年度は児童生徒の自律的、協働的な学びの実現を目指し、全ての教科において「エデュスクラム」という学習法を活用した授業実践に取り組みました。エデュスクラムを活用することで、協働して学習に取り組む際に、一人一人が役割を担い、相互に連携し、学習の調整を行いながら課題解決を図ることができます。研究を通して、児童生徒には主体的に課題解決に取り組む態度が醸成されました。

Q/A

Q1

練馬区の中学校に進学するときには、小中一貫教育グループの中学校に進学しなければならないのですか。

A1

通学区域の指定や学校選択制の利用により、小中一貫教育グループ以外の中学校にも進学することができます。

Q2

同じ中学校に、小中一貫教育グループの小学校から進学する子供とそれ以外の小学校から進学する子供がいると、学習内容等に差が生じてしまうのではないですか。

A2

小中一貫教育の取組はグループごとに異なりますが、学習指導要領に準拠した授業を行うため、中学校に入学した段階で、学習内容等に差は生じません。

Q3

小中一貫教育校には、他の小学校を卒業した子供も中学校から入学することはできますか。

A3

他の中学校同様に、中学校から入学することができます。また、小中一貫教育校から学校選択制を利用して、他の中学校に進学することもできます。



令和5年度

練馬区の小中一貫教育

授業改善による
学力・体力の向上

連携指導による
豊かな人間性・社会性の育成

滑らか接続による
安定した学校生活

目指す
15歳の姿

練馬区の小中一貫教育校、全小・中学校では、小中一貫教育グループごとに「目指す15歳の姿」を設定し、義務教育の最終段階における生徒像の実現を目指しています。

今年度は、9年間の系統的な教育活動を行うための「小中一貫教育の取組プログラム」を作成し、実践することで、「目指す15歳の姿」の実現に向けた取組を推進しています。

小中一貫教育グループの取組事例

練馬中学校グループ（練馬中・練馬小・高松小・春日小）

●●● 小中一貫教育の取組プログラム ●●●

＜目指す15歳の姿＞

- 「学力向上」
義務教育を終え、自信をもって社会に羽ばたく学力をもつ
- 「人権教育」
いじめのない、相手を思いやる豊かな心をもつ
- 「体力向上」
日々安全に過ごすために必要な、健康な体をもつ

テーマ		学力向上	人権教育	体力向上
中学校	第3学年	身に付けたコミュニケーション能力を「活用する」(校外学習時や、ALTとの即興劇)	「社会全体」へ向けた思いやり	自主的な体力づくり(自ら目標を掲げ、目標に向かって努力することができる)
	第2学年			
	第1学年	コミュニケーションの力を「身に付ける」(具体的な使用場面を想定した会話練習)	「学級や学校」へ向けた思いやり	
第6学年				
第5学年				
小学校	第4学年	コミュニケーションに「慣れ親しむ」(アルファベットの音に親しむ、海外の文化に興味をもつ)	「自分の友達」へ向けた思いやり	基礎的な体力づくり(授業や日常生活の中で、基礎的な体力を身に付ける)
	第3学年			
	第2学年			
	第1学年			

校区別協議会において、取組プログラムの視点に基づいた実践について協議を行いました。

また、小学生が中学校に入学する上で滑らかな接続ができるように、小学校6年生を招いた体験授業を実施したり、小中学生の意見交流会を実施しました。交流会では小学生からの「小学校と中学校の生活のきまりや学校行事などの違いはなんですか」という質問に、中学生が丁寧に回答していました。交流会の様子は中学校が作成している「生徒会新聞」でも紹介し、各小学校にも配布しました。小学校から、感想や御礼の手紙を受け取るなど、交流を深めています。



北町中学校グループ（北町中・北町小・北町西小）

＜目指す15歳の姿＞

- 自分を知って自己肯定感の高まりを感じ、自分の将来への夢をもって努力できる。
- 向上心をもって学習に励み、学力を身に付ける。
- 心身を鍛え、健康で笑顔を大切に生活する。

●●● 小中一貫教育の取組プログラム ●●●

テーマ		キャリア教育	学力向上	学校生活の充実
		「職業や進路に関する学習・体験等」	「発達段階に応じた主体的、対話的で深い学びの実現」	「児童・生徒指導のルールの共通化・実践」

キャリア教育の視点から、小学校の夏季学習教室に中学生がリトルティーチャーとして参加し、小学生が分からないところ等を丁寧に教えました。交流を通して、小学生が中学生になったときの自分の姿を想像し、中学校生活への意欲を高めるとともに、中学生は自分の行動に自信を深めることで、自己肯定感を高めることに繋がっていると考えています。

学力向上に向けた取組として、「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指し、校区別協議会にて授業研究を行いました。発達段階に応じた手だてについて、校種を越えた協議を行い、教員相互に授業力向上に努めています。

また、学校生活の充実に向けた取組として、タブレット端末の使用上のルールについて、校区別協議会にて協議し、共通理解を図りました。



三原台中学校グループ（三原台中・光和小・泉新小・橋戸小）

＜目指す15歳の姿＞

- よく考え、すすんで学ぶ児童・生徒
- 心身を鍛え、たくましく生き抜く児童・生徒
- 思いやりをもち、他と共に生きる児童・生徒



●●● 小中一貫教育の取組プログラム ●●●

テーマ		情報活用能力・技能	情報モラル
中学校	第3学年	・所与の条件を踏まえて、情報活用の効果的な計画を立案できる。 ・統計的な調査を設計し、情報を効果的に収集・検証できる。 ・文字入力ができる。(40文字/1分間)	・情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する。 ・情報の信頼性を吟味できる。 ・自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識をもって行動できる。 ・自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる。
	第2学年		
	第1学年		
小学校	第6学年	・問題解決に向け、自ら情報活用の計画を立案できる。 ・調査を設計し、情報を適切に収集・検証できる。 ・目的に応じて、表やグラフを用いて情報を整理できる。 ・相手や目的に応じた表現や、適切な情報発信ができる。 ・文字入力ができる。(30文字/1分間)	・他人や社会への影響を考えて行動する。 ・不適切な情報であるものを認識し、対応できる。 ・情報の正確さを判断する方法を知る。 ・自他の個人情報第三者に教えない。 ・健康を害するような行動を自制する。 ・人の安全を脅かす行為を行わない。
	第5学年		
	第4学年		
	第3学年	・情報を収集する身近な方法を知り、実施できる。 ・絵や図を用いて情報を整理できる。 ・相手に応じた表現や発信ができる。 ・文字入力ができる。(10文字/1分間)	・相手への影響を考えて行動する。 ・不適切な情報に出会ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する。 ・情報には誤ったものもあることに気付く。 ・個人の情報は、他人にも教えない。 ・健康のために利用時間を決め守る。
	第2学年		
	第1学年		

三原台中学校グループでは、今日的な教育課題である、「情報活用」に視点を置き、「情報活用能力・技能」、「情報モラル」を柱とした「小中一貫教育の取組プログラム」作成しました。発達段階に応じた、情報活用に関わる資質・能力を明確化するとともに、タブレット端末を活用する授業改善に取り組んでいます。